

令和八年度 学校推薦型選抜・社会人特別選抜試験 I期

国語 (解答はすべて解答用紙に記入すること)

埼玉医科大学附属総合医療センター看護専門学校

受験番号
氏名

無断転載・複製を禁ず

国語 (解答はすべて解答用紙に記入すること)

埼玉医科大学附属総合医療センター看護専門学校

一次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

①すこし前のことになるが、あるシンポジウムで発表された数字は(a)シヨウゲキ的であつた。ある全国アンケートで、小学五、六年生と中学生に、「あなたが生きている間に人類は滅びると思うか」と訊いたところ、小学生の半分以上、中学生、とくに男子は六割に近い割合でイエスと答えていたというのである。

②(A)それは、子どもたちの問題だけではない。子どもたちにそうした思いを抱かせているような大人たちのあり方でもある。最近ほとんどに中高年の自殺も目立ってきている。(1)ある、ぬぐいがたい「はかない」気分のようなものが、この社会全体に(b)タダヨつていていることである。

③このような思想状況をどう考えたらいいのだろうか。こうしたことも念頭に、「はかない」ということについて考えてみよう。「はかない」とは、もともと「はか」が「ない」ということである。「はか」とは、「イネやカヤなどを植え、また、刈ろうと予定した範囲や量」のことで、「はかがいく」「はかどる」の「はか」のことである。つまり、「はかーない」とは、基本的に「つとめても結果をたしかに手に入れられない、所期の結実のない意」で、「これといった内容がない。手ごたえがない。あつけない」という意味になった言葉なのである。

④(B)、「はかない」には、「はかる」ことができないという意味合いもふくまれる。「はかる」とは「はか」の動詞化したものであり、そのさまざまな「はかる」に対応して、それが「できない」ところに、「はかーない」という状況が生まれてきたということである。

⑤さて、その「はかる」は、きわめて多様な意味をもっている。漢字で見るとわかりやすい。まず、ものごとを計量するという「計る」「量る」「①る」がある。つぎに、そうして計量したものをもとに、あれこれ調整・案配したり推測したりする「衡る」「付度る」や、「会議にはかる」の「②る」がある。そして、そうしたものをまとめて何ごとかをもくろみ企てるという「③る」「策る」、さらには「④る」がある。

⑥(C)、「はかる」ということは、人がある意図・計画をもって生活するときには、かならず求められる基本的な(c)イトナみということが出来る。そして、とりわけそうしたことが突出して強調されてきたのが、近代・現代の科学技術的な考え方なのである。科学技術の基本的な発想は、ものごとをすべて「はかり」にかけ、数値(デジタル)化し、それをもとに目標を立て未来へと向かっていくというところにある。そうした「はか」あることが第一義となっている社会が、いわゆるビジネス(bussy)忙しい社会ということ、そこでは、何より「はかる」こと、「はか」ばかしく結果を手に入れることが求められてきたのである。しばらく前までの、日本の母親の叱り言葉の第一位が「早くしなさい」だったのは象徴的である。

⑦(D)現在、そうした「はか」あることだけを求める考え方の根幹がぐらついてきた。環境問題やエネルギー問題もからんで、ひたすら未来にむかって成長目標を立て、結果・成果のみを手に入れようとする発想が頭打ちになってきたということである。その意味でも「はかーない」状況が現出してきているのである。

⑧「はかなさ」は、基本的にはむろんネガティブな意味内容をもっているが、しかし同時に、そこにおいてこそ可能であるような、(2)何かしらポジティブなものを見いだすことができる思想感情でもある。つまり「はかない」ということは、単なる気分ではなく、それをそれとしてきちんと自覚することにおいて、これまでの「はか」第一主義のビジネス社会の「忙しさ」のなかで、心亡ぼしてきた(3)何ものかを取りもどすことができるのではないかということである。

⑨近代日本の出発点で。東洋・日本の美を西欧に紹介しようとした岡倉天心は、こういう言い方をしている。「はかないことを夢に見て、美しい取りとめのないことをあれやこれやと考えようではないか。」(『茶の本』)あえてなされたこうした言い方

には、あらためて、(4) 生きるこの人生の「はかなさ」を積極的に受けとめようとする決意をうかがうことができるが、それは、「茶道の要義は「不完全なもの」を崇拝するにある。いわゆる人生というこの不可解なものの中に、何か可能なものを(d)成就しようとするやさしい企てである」といった茶道理解の本質にもつながる。「はかなさとは、まずもって、そうした不完全さを感じ得る感受性である。が、かといってそれは、「不完全さ」のままに停滞・揺蕩するということではない。「不完全なもの」を崇拝しつつ、そのうちに何かしら「可能なもの」を成就すべく「やさしく」企てられているのが茶の道だというのである。

[10]そのことはさらに、「真の美はただ「不完全」を心の中に完成する人によってのみ見いだされる」、「何物かを表わさずにくところ、見る者はその考えを完成する機会を与えられる」、「「不完全崇拝」にささげられ、故意に何かを仕上げずにおいて、想像の働きにこれを完成させる」、等々と説明されてくる。『茶の本』に一貫している、こうした考え方は、同時に、東洋・日本の美の(e)要諦でもあると捉えられているが、いうまでもなくそれは、ひとり天心の発明ではなく、無常感といわれてきたものの美学の、いわば近代的な整理の仕方にすぎない。「(5)の和歌における、(6)の連歌における、(7)の絵における、(8)が茶における、其貫道する物は一なり」(芭蕉『笈の小文』)の「二」の中身の問題である。(中略)

[11]「はかない」とは、次のようなことを可能にする感受性でもある。ひとつは、今ここにある「みずから」の存在やその(c)イトナみが、けつして「はかる」ことのできないかけがえのないものであるということの感受、つまり、ひたすら結果・成果のみへと「はかる」ことではない、今ここにあること自体の一回性の尊さ・いとしさ・おもしろさの感受が可能であるということである。もうひとつは、そうしたことを感じ取るということは、同時に、「みずから」を包み込んである、「はかる」ことのできない何ものかの働きの感受でもあるということ、である。「はかない」という「みずから」のあり方の有限性や否定性を介さなければ現れ出てこない価値や意味、あるいは、美しさというものがあるということである。

[12]村上春樹は、「カタルーニャ国際賞」記念講演で、こう述べている。我々は、無常という移ろいゆくはかない世界に生きています。生まれた生命はただ移ろい、やがて例外なく滅びていきます。大きな自然の力の前では、人は無力です。そのような危の認識は、日本文化の基本的アイデアのひとつになっています。しかしそれと同時に、滅びたものに対する敬意と、そのような危機に満ちた脆い世界にありながら、それでもなお生き生きと生き続けることへの静かな決意、そういった前向きな精神性も我々には具わっているはずです。」(村上春樹『非現実的な夢想家として』)効率や便宜という名の現実立ち向かう倫理を、「移ろいゆくはかなさ」を感受する無常感を「日本文化の基本的アイデア」と結びつけて再生させようとしたのである。

(竹内整一 『「おのずから」と「みずから」』より一部改変)

問一 傍線部(a)と(e)の漢字はその読みをひらがなで答え、カタカナは漢字にせよ。

ア つまり イ しかし ウ むしろ エ むろん オ さらに

問二 空欄AからDに入る適語はどれか、それぞれ次の中から選んで記号で答えよ。

問三 空欄①～④に入る適語はどれか、それぞれ次の中から選んで記号で答えよ。

ア 謀 イ 測 ウ 諮 エ 図

問四 空欄⑤～⑧に入る適語はどれか、それぞれ次の中から選んで記号で答えよ。

ア 利休 イ 西行 ウ 宗祇 エ 西鶴 オ 雪舟

無断転載・複製を禁ず

問五 傍線部(1) 「ある、ぬぐいがたい「はかない」気分のようなもの」とあるが、それは具体的にどのようなものと筆者は考えているか。それを表現している段落を番号で示せ。

問六 傍線部(2) 「何かしらポジティブなものを見いだすことができる思想感情でもある。」とあるが、それによって、日本の伝統の中で作り出してきたものと筆者がとらえているものを10段落より15字で書き抜き、その最初の三字で示せ。

問七 傍線部(3) 「何ものか」によって、筆者は何を知ることができると考えているか。次の説明文の(1) (2)に入る表現を、各自で示せ。

「人、自らが(1) (2)と自らを超越した(3) (4)を知ることができる。」

問八 傍線部(4) 「生きるこの人生の「はかなさ」を積極的に受けとめようとする決意」と同じ意味の表現を、これ以降の本文より7字で示せ。

問九 本文の内容と最も合致するものはどれか、次の中から選んで記号で答えよ。

- ア 人は常に「はかる」とい基本的な営みを持って、意図・計画的に生活する必要がある。
- イ 日本の母親の叱り言葉「早くしなさい」はビジネス社会の「はかなさ」を象徴している。
- ウ 今ここにあること自体の一回性の尊さは、かけがえのなさの感受から生ずるものである。
- エ 社会に必要なことは、数値(デジタル)化と、それをもとに目標を立て未来へ向かうことである。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

1 吉行淳之介は、重さよりも、軽さを好んだ作家だった。1970年代にベストセラーになった(a)ズイシツ集『軽薄のすずめ』で、重厚さを「一も二もなく良し」とするような(b)フウチョウウに、苦言を呈した。「必要なのは重々しいコワモテ風の姿勢ではなくて、(1)鋭い軽薄さである」

2 それから半世紀が過ぎた。人気作家が「カラカイと皮肉」を込めて発したという問いかけをいま、反芻(はんすう)してみる。この軽薄さに満ちた人の世で、(2)あえて彼が重厚さを嗤(わら)ったのは、どうしてか。

3 吉行は敗戦の1年前の夏、徴兵されている。20歳の学生だった。甲種合格の現役兵として、最前線に送られるのは間違いないかった。ところが、入営3日目に(c)喘息がみつかる。

4 急きよ除隊が許され、当然のように目の前にあった死が、パツと消えた。戦時下、人ひとりの生き死には、しごく軽く扱われる。やたら軍という権威がのさばる社会は重苦しく、硬直していた。彼はそれを滑稽な重さと表現した。

5 かつこいい作家だった。(A)洒脱でありながら、しっとりとした文章を書いた。(B)を評した「あれじゃ、疲れのだらうなあ」、との一言にはうならされる。自分は「威勢のよい根性」ではなく、「ぐにやぐにや根性」だと言っていた。

6 きよう(d)セイタン100年。日に焼けて(C)ばんだ文庫本を(e)ホンダナから取り出し、ひとりページをめくる。いま読まれる作家ではないのかもしれないけれど、時代がかった物言いが勇ましく聞こえてくる昨今、その(D)の力のぬき方が、妙に気になる。

(『天声人語』より一部改変)

問一 傍線部(a) (e)の漢字はその読みをひらがなで答え、カタカナは漢字にせよ。

問二 空欄Aに入る熟語を次より選び記号で答えよ。

- ア 軽少 イ 軽快 ウ 軽妙 エ 軽薄

問三 空欄Bに入る作家の代表作は、『金閣寺』・『豊饒の海』などがある。次より選び記号で答えなさい。

ア 川端康成 イ 夏目漱石 ウ 森鷗外 エ 三島由紀夫

問四 空欄C・Dに入る1字の漢字をそれぞれ記せ。

問五 傍線部(1)「鋭い軽薄さ」とあるが、それと対照的な表現をこの段落以降より書き抜け。

問六 傍線部(2)「あえて彼が重厚さを嗤ったのは、どうしてか。」とあるが、その根拠となる事実を表現している一文を書き抜き、その最初の3字で示せ。

問七 筆者の批判が込められていると考えられる部分を本文より25字以内で書き抜き、その最初の3字で示せ。

問八 この文章を起承転結の四つの段落に分ける場合、「転」はどこからが最もふさわしいか。段落番号で答えよ。

三 次の1～5の空欄に入る四字熟語を選択肢から記号で答え、またカタカナをそれぞれ漢字にせよ。

- | | | | | | | | | |
|---|-----|----------|---|-------|-----|---|-----|-----|
| 1 | () | の政策と批判する | 2 | () | な態度 | 3 | () | の境地 |
| 4 | () | の輩 | 5 | 人それぞれ | () | だ | | |

〈選択肢〉 A 千差万別 B コウメイ正大 C 朝令ボカイ D 安心リツメイ E 海千ヤマセン

無断転載・複製を禁ず